(様式3)

校種	小・ ☒ 中 どちらかに○	学校番号	14	学校名	宇都宮市立国本中学校
----	---	------	----	-----	------------

平成31(2019)年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・暴力行為2件(器物損壊, 生徒間暴力), いじめ6件(主に, からかいや悪口)
- ・不登校19名(新たな不登校1年3名, 2年1名, 3年4名)
- ・学校不適応生徒や不適応傾向にある生徒は, SCMを中心にスクールカウンセラーおよびかみやきルーム指導員との連携を密にして対応に当たった。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・虐待が疑われる事案に係る緊急点検では, 登校していない生徒が9名であったが, 家庭訪問を繰り返すことで全ての生徒に面会することができ, 虐待の恐れはなかった。1・2年の家庭には, 今後も定期的に家庭訪問を行っていく。
- ・市教委以外に外部機関(中央警察署1件, 児童相談所4件, 市子ども家庭支援室2件, 保健所1件)と連携し対応に当たった。今後も定期的に面談やカウンセリングが行われる。

(3) 学校生活の状況から

- ・「いじめは絶対に許さない」ことを認識させ, 規範意識を育てる。
- ・地域学校園全体で基本的な生活習慣を身に付けさせることを目標に, 共通指導項目を推進していく。
- ・自主的に考えて動ける生徒が少ない。自ら進んで考えて行動できる生徒の育成に努める。
- ・ほぼ全ての生徒が自転車登校を行っており, 交通マナーの育成に努める。

2 今年度の重点目標

「ルールやマナーを守り, 正しい判断力に基づいた行動のできる生徒の育成」

3 今年度の取組(「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★, 「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□, 不登校対策に関する取組のうち重点は文頭に○)

(1) 基本的な生活習慣の確立と安全意識の徹底

礼儀, 言葉遣いなど日常生活での基本的な生活習慣をしっかり身に付け, 正しい判断に基づいた規律正しく安全な行動の定着に努める

- ★ 「時間」「きまり」を守らせる…通年
- ★ あいさつをきちんとさせる…生徒会・学級・教師・PTA・小中合同によるあいさつ運動の実施
- 学校のきまり, 社会のルール, 交通ルールを守らせ, 規則正しく安全な生活をさせる。
…全校, 学年集会(4月, その他随時), 交通安全教室の実施(4月), 薬物乱用防止教室の実施(5～6月) 情報モラル講演会(7月), いじめ撲滅劇(10月), 不審者対策の避難訓練実施(10月)
- ・ 制服, 上履き, 体育着をきちんと着用させる…強化週間の実施(4月, 6月, 10月, 2～3月)

(2) 授業における生徒指導の充実（学業指導の充実）

各教科等で生徒指導の機能を生かし、達成感、満足感を感じ得る楽しい授業づくりに努める（三機能、人権教育上の配慮の明確化）

- ★ 学習用具の準備の徹底…通年
- ★ チャイムで授業を始め、チャイムで授業を終わらせる…通年
- ★ 指名されたらはっきりと返事をさせる…通年

(3) 個の理解と集団づくり及びいじめ防止の取組

教育相談の本質を踏まえ教師と生徒が望ましい人間関係を醸成し、「スクールカウンセラー」と連携しながら、生徒一人一人に温かな目を向け、内面を理解するとともに居がいのある学級集団づくりに努める

- いつでも、どこでも気軽に、学年を問わず声かけをする…随時
- 生徒に関する情報交換の徹底…生徒指導部会の記録の回覧、職員会議等その他随時
- 一人一人が所属感を実感できる学級づくりを進める（いじめ、不登校の早期発見）
…定期教育相談の実施（7月、11月）、Q-Uなどの諸検査の効果的活用、
いじめゼロ強調月間の実施（5月、10月）、道徳、学級活動の充実、
心のノート、スタンダードダイアリーの活用
いじめ撲滅宣言の提示、いじめ撲滅劇の実施（10月 学校祭で地域・保護者に向けても発信）

(4) 生徒会活動、ボランティア活動、部活動の活発化

様々な集団活動の場で所属感、充実感を感じとれるような生徒会活動、ボランティア活動、部活動の活発化に努める

- ★ 生徒の手による企画、運営の場を多く設定する…各学校行事等
- ★ ボランティア活動を積極的、計画的に行う…アルミ缶・ペットボトルキャップ回収（毎月）
- ★ 部活動生徒心得を遵守し、部活動に積極的に参加させる…強化月間の実施（7月）

(5) 学校、家庭、地域の連携強化

全職員相互の連携はもとより、学校・家庭・地域との連携を密に図れるような体制の確立に努める

- ★ 学校だより、保護者向け生徒指導だより、学年だより、学級だよりなどの諸たよりを定期的、継続的に発行し、家庭、地域との連携を強化する

(6) 教師の自己啓発と指導体制の確立

教師が人間として、また、社会人として常に生徒の模範であることを自覚し、自己啓発をしながら協力体制を確立する

- 生徒を納得させる指導、すき間を作らない指導の実践…教師向け生徒指導だよりの継続的発行